岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　陰平川通常砂防事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　砂防

ボーリング名	No.1	調査位置	広島県福山市駅町後地	北　緯	34° 23′ 41.9634″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 6月17日～ 令和2年 6月19日	東　経	133° 22′ 26.8846″
調査業者名		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	TP 83.15m	角度	180 上 90 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	5.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 YBM-05型
				エンジン	ヤンマーディゼルNFD-9
				ポンプ	東邦地下工機GP-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD (%)	記事	孔内水位/測定月日
	82.65	0.50	粘土混り砂礫	砂礫	茶灰								GL-0～0.5m　河成堆積物。φ2mm～50mmの亜角礫が主体で細粒砂を多く含む。また葉や根が混入する。	6/19 0.77
1					灰茶褐							0[0](100)		
	81.30	1.85			暗灰褐								GL-0.5～1.85m　崖錐堆積物。φ2mm～50mmの角礫主体で細粒砂～粗粒砂を多く含む。また葉や根が混入する。	6/22 2.15
2				粘板岩	灰褐青～灰青	w3	h1	C	Ⅳ	c	CL	0[0](100)		
					灰黄褐	w4		D	Ⅴ	d	D			
3					灰暗青～灰青	w3		C	Ⅳ	c	CL	5[0](100)		
4												9[0](100)		
	78.15	5.00			灰白青	w2		B	Ⅲ	b	CM		GL-1.6～5.0m　基盤岩。GL-1.6～4.2m　泥岩質と砂岩質が混在する粘板岩。角礫状～片状を呈し、約40～50°の片理がみられる。亀裂が多く発達し、亀裂沿いに風化が認められ、部分的に土砂を挟む。岩片と礫は比較的硬質であり、ハンマーでたたくと亀裂沿いに砕ける。GL-2.5～2.7mは比較的強風化しており、若干軟質となる。GL-4.2～5.0m　砂岩質優勢の粘板岩。片状～短柱状を呈し、亀裂が発達する。亀裂沿いは弱風化しているが、岩芯は砂質でハンマーでたたいても割れない程度。	
5														
6														
7														
8														
9														
10														

標準貫入試験

深度－N値図 (0 10 20 30 40 50 60)

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
12	1.15	12		
	1.45	300		
50以上	2.00	50	40	
	2.04	40		
50以上	3.00	50	60	
	3.06	60		
50以上	4.00	50	80	
	4.08	80		

原位置試験　室内試験

削孔状況

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
	0		S/WC 打込み	0	0	0	W3 0	0
	0							
	97	66/ケーシング	HW/DI	100	150	1	W2 10	10
	109							
	76					1	W2 10	10
6/17	89							
	64							
	117			200	150	1	W2 10	10
6/19								